
晴れた空の下

彩夏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

晴れた空の下

【Nコード】

N6095Y

【作者名】

彩夏

【あらすじ】

わかるようでわからない。

そんな思春期の心を書きました。

本当に「わかるようでわからない」なので、読み終えた後、何も残るものはないと思います。

ですが、書いた私本人は「わからないようでわかる」作品なので、皆様が読み終えた後、逆に何かが残ることを期待しています。

短編の中の短編ですので、覚悟してお読みください。

「明日晴れたらいいね」

そればかり、まるで呪文のように唱えていた。

「明日は雨だつて」

呪文にまぎれ合いの手のように呟くその声は、回数を追うことに笑みを含んだ。

「告白された」

そう言ったのは、友達の祐樹だった。

男女間に友情はないと、世は常に疑いの目で私たち二人を包むけれど、気にはしないという祐樹の一言があるおかげで、私も常に、気にはしないと呟けている。

「そうなんだ」

「そうなんだよ」

その表情は、困ったというわけではなさそうだった。しかし、嬉しいといった感情でもなさそうだった。

「それで、どうするわけ？」

大して興味なさげに呟く。勿論興味はまるきししないわけではない。

「付き合っただろうな」

人柄の様である。

「大事にしてやんなよ」

「大事にはできないだろうな」

私は頭を抱えた。

この男は、本当に思っていることを正直に言う。

自分の欠点だとはまるで思っていない。

「嘘でも大事にするとっておけばいいのに」

「嫌、俺は嘘はつかない。本人にも、大事にはしないと言った」

その女の子の心情を思うと、自分の事の様に申し訳なさが溢れ出たので、考えるのをやめた。

「嘘も方便だ」

「それでも嘘は嘘だ」

正論だが、相変わらずこの男は頭が固い。

自分を曲げない、それでいて実はとても脆い。

当って碎ける、いや、当たる前に風圧で粉々になり触れることすらかなわない。

そういう男だ。

だから自分の周りを鉄壁で囲み、いつでも確実に壁をぶち破ってきた。

そういう男なのだ。

今回も、付き合いを始めるにあたって、あらかじめ「大事にはしない」と鉄壁を用意し、そして挑むのだろう。

そしてその鉄壁はいつの間にもやら、攻撃力やら守備力やらをレベルアップさせ、壁は自ら消えていくのだろう。

「明日は初デートだそうだ」

相変わらずである。だれの事だと思ってるのやら。

「そう、晴れたらいいね」

「明日は雨だそうだがな」

そして、延々と言いつけることになるのである。

「明日晴れたらいいね」

本当に晴れたらいい。

そして晴れた青空の清々しさの中で、貴方自身を晒し出してくればいい。

壁は自ら消えていくだろうか。

もしそうだとしたら、私がいいだけなのだ。

明日、晴れたらいいのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6095y/>

晴れた空の下

2011年11月18日10時09分発行